

大学入学者選抜改革の動向

文 部 科 学 省 高 等 教 育 局
大 学 振 興 課 大 学 入 試 室 室 長

山 田 泰 造



文 部 科 学 省

MEXT

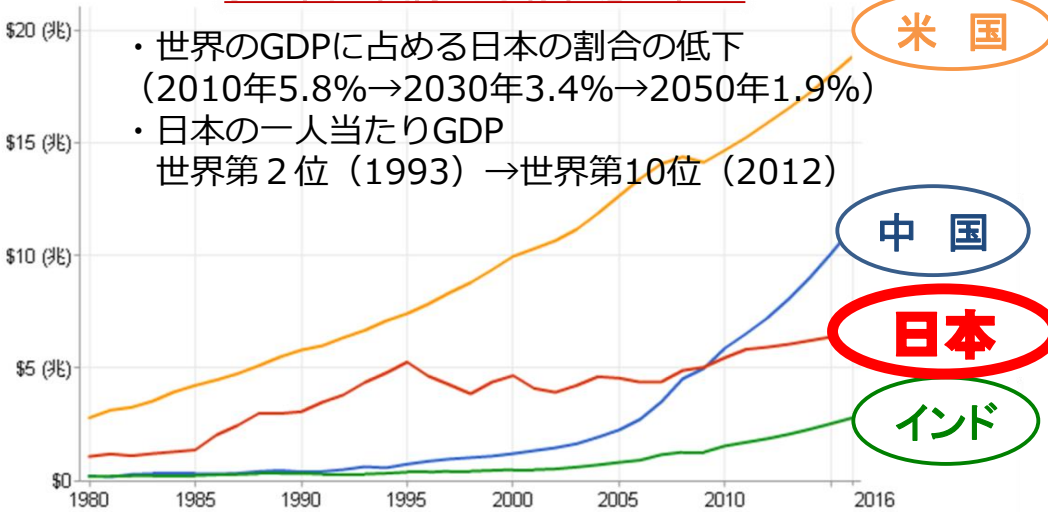
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

「高大接続改革」の背景

グローバル化の進展

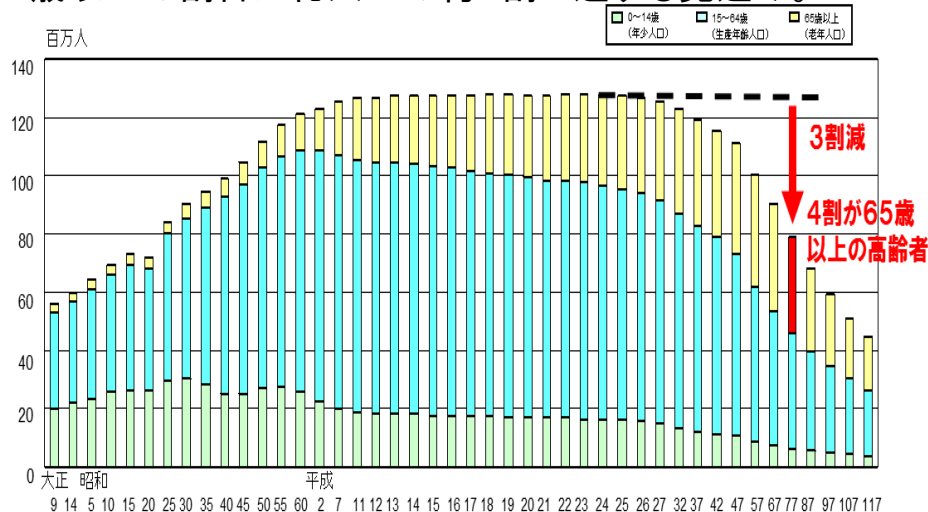
我が国の国際的な存在感の低下

- 世界のGDPに占める日本の割合の低下
(2010年5.8%→2030年3.4%→2050年1.9%)
- 日本の一人当たりGDP
世界第2位(1993)→世界第10位(2012)



人口の推移と将来人口

少子高齢化の進行により、**約50年後には総人口が約3割減少**、**65歳以上の割合が総人口の約4割に達する見込み**。



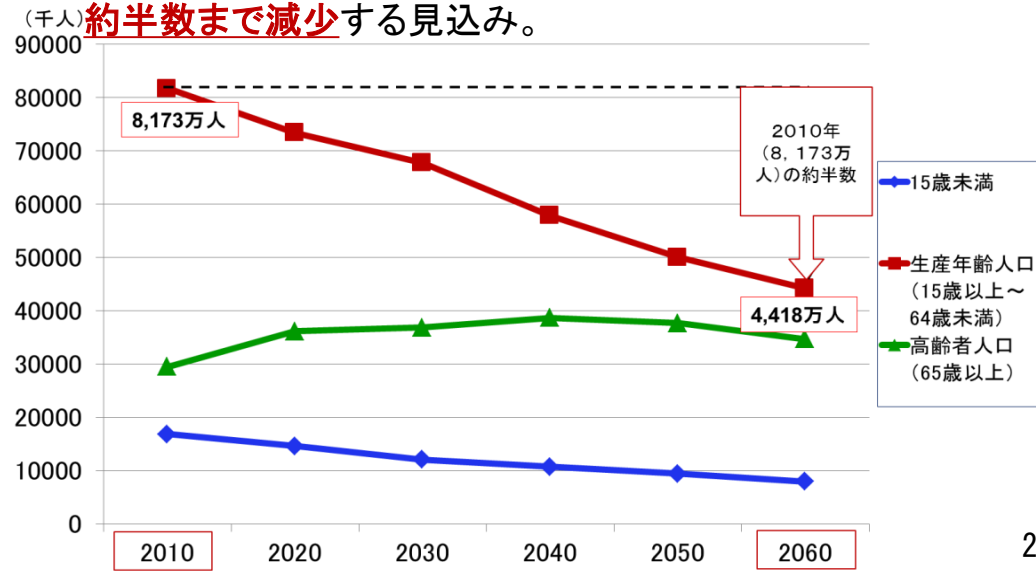
子供たちの未来

- 子供たちの**65%**は、大学卒業後、**今は存在していない職業**に就く
キャシー・デビッドソン氏(ニューヨーク市立大学大学院センター教授)
- 今後10~20年程度で、約**47%**の**仕事が自動化される**可能性が高い
マイケル・A・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授)
- 2030年までには、**週15時間**程度働けば済むようになる
ジョン・メイナード・ケインズ氏(経済学者)

➡ **現在の職業の多くは、今後なくなっていく**

生産年齢人口の推移

生産年齢人口も減り続け **2060年には2010年と比べ約半数まで減少**する見込み。



入学定員、入学者数等の推移【長期的傾向】

- 4年制大学の入学定員は増加しているが、短期大学は大幅に減少。
- 志願倍率、入学定員超過率ともに減少傾向。

	18歳人口	高等学校 卒業生	大 学						短 期 大 学				
			入学 定員	志願 者数	志願 倍率	入学 者数	入定 超過率	入学 定員	志願 者数	志願 倍率	入学 者数	入定 超過率	
昭和41年	2,491	1,557	195	513	2.63	293	1.5	68	137	2.01	108	1.59	
昭和51年	1,543	1,325	302	650	2.15	421	1.39	124	184	1.49	175	1.41	
昭和54年	1,564	1,384	315	637	2.02	407	1.29	127	191	1.50	177	1.39	
平成4年	2,049	1,807	473	920	1.94	542	1.14	203	294	1.45	255	1.25	
平成11年	1,545	1,363	525	756	1.44	590	1.12	176	175	1	169	0.96	
平成16年	1,411	1,235	545	722	1.32	598	1.1	106	106	1	106	1	
平成17年	1,366	1,203	552	700	1.27	604	1.1	100	98	1	100	1	
平成18年	1,326	1,172	562	691	1.23	603	1.07	96	89	0.92	91	0.95	
平成19年	1,300	1,147	567	690	1.22	614	1.08	92	82	0.89	85	0.92	
平成20年	1,237	1,088	570	670	1.18	607	1.06	88	74	0.85	77	0.88	
平成21年	1,212	1,065	572	669	1.17	609	1.06	83	69	0.83	73	0.88	
平成22年	1,216	1,071	575	680	1.18	619	1.08	79	67	0.85	72	0.91	
平成23年	1,202	1,064	578	675	1.17	613	1.06	76	65	0.86	68	0.9	
平成24年	1,191	1,056	581	664	1.14	605	1.04	72	61	0.84	64	0.89	
平成25年	1,231	1,071	584	679	1.16	614	1.05	70	61	0.88	65	0.93	
平成26年	1,181	1,064	586	662	1.13	608	1.04	68	58	0.85	62	0.91	
平成27年	1,200	1,056	589	666	1.13	618	1.05	65	58	0.89	61	0.94	
平成28年	1,190	1,092	593	665	1.12	618	1.04	64	55	0.86	58	0.91	

(単位) 千人

18歳人口戦後
1回目のピーク

18歳人口戦後
2回目の減少

18歳人口戦後
2回目のピーク

私立大学入定
未充足校大幅に
増加

※志願者数は高等学校及び中等教育学校後期課程卒業生の計(通信制は除く)。入学者数は高等学校及び中等教育学校後期課程卒業生(通信制含む)、外国の学校卒業生、専修学校高等課程卒業生、その他(高卒認定等)の計。

(出典: 学校基本調査、全国大学一覧、全国短期大学一覧を基に作成)

入試方法（大学入学者選抜実施要項上）

○ AO入試

（概要）

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

- ① 入学志願者自らの意思で出願する公募制。
- ② 知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準としない。
- ③ 大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、以下のいずれかをを用いることが必要。
 - ア 各大学が実施する検査（筆記、実技、口頭試問等）の成績
 - イ 大学入試センター試験の成績
 - ウ 資格・検定試験等の成績
 - エ 高等学校の教科の評定平均値
- ④ ③ア～ウを行う場合にあっては、③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。

（時期）

- ・出願期間は8月1日～
- ・学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～

○ 推薦入試

（概要）

出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

- ① 高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用い、その旨を募集要項に明記する。
- ② 推薦書・調査書だけでは、入学志願者の能力・適性等の判定が困難な場合には、AO入試の③ア～ウの措置の少なくとも一つを講ずることが望ましい。

※募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

（時期）

- ・出願期間は11月1日～
- ・学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～

○ 一般入試

（概要）

調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。

（時期）

- ・試験期日は2月1日～4月15日

日本の大学入学者選抜

日本の入学者選抜の特徴

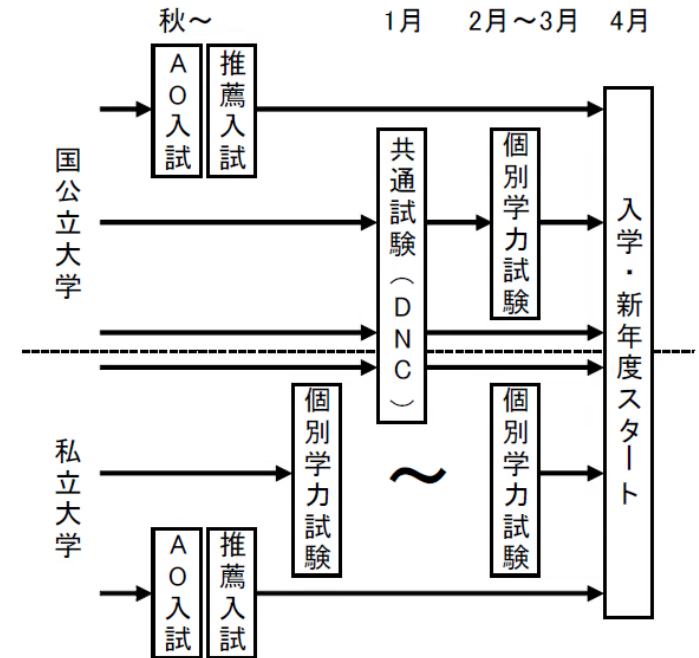
(1) 各大学の入学者選抜

・各大学では、教育理念を踏まえた「入学者受入れ方針」（アドミッション・ポリシー）に基づいて、各大学でAO入試、推薦入試、個別学力試験を実施。

(2) 大学入試センター試験

・基礎的な学習の達成度を判定するため、大学入試センターと各大学が共同して実施。50万人規模。
・マーク方式、多肢選択式の問題で実施。

入試の流れ



マーク方式



多肢選択式問題の例

現代社会

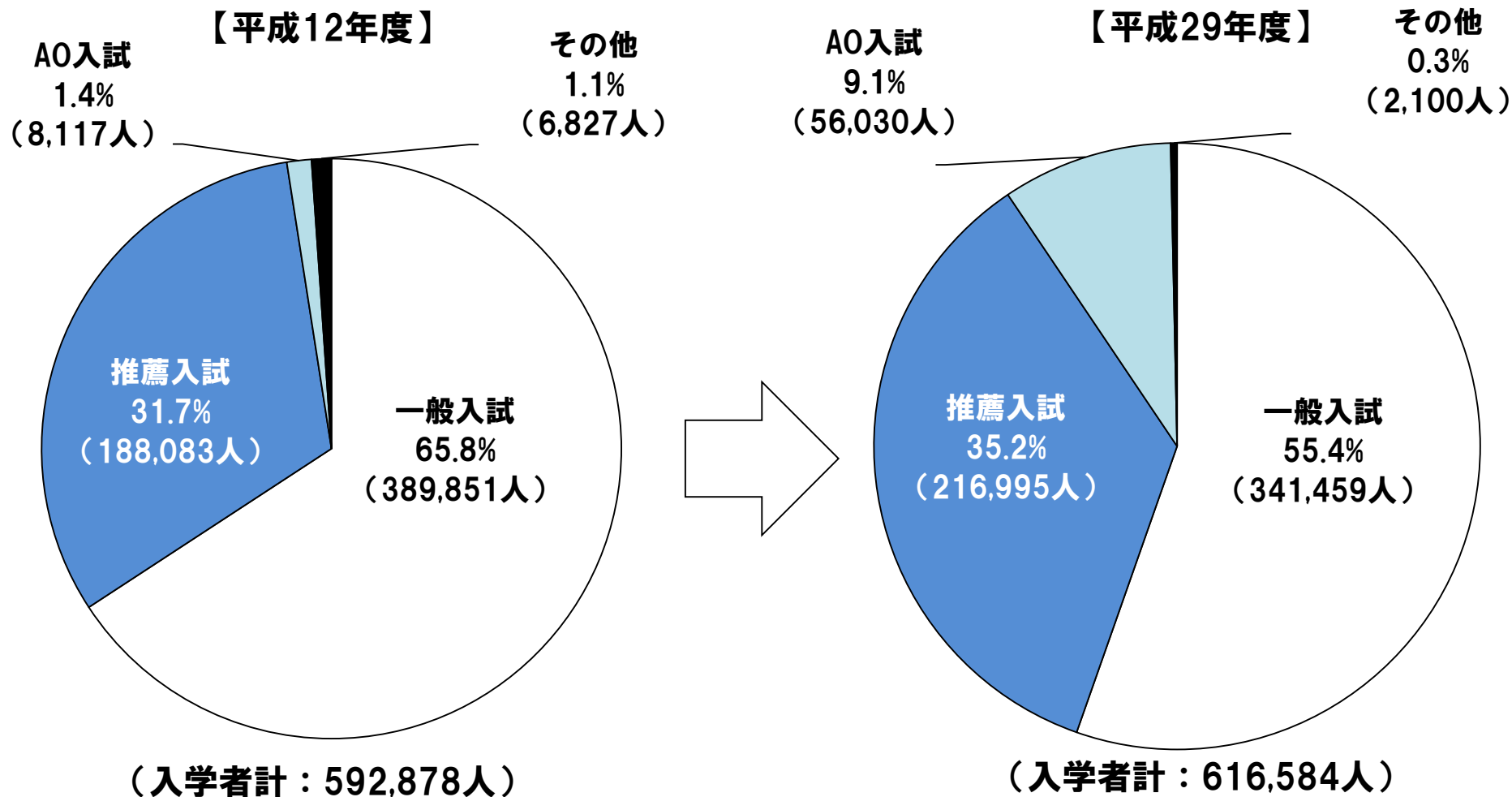
問 3 下線部◎に関して、技術革新に関する記述として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

- ① 技術革新によって起こるとされる、50年から60年を周期とする景気循環は、ジュグラの波と呼ばれる。
- ② 情報技術の革新によって、いつでもどこからでも容易に情報にアクセスできるようになった社会は、大量消費社会と呼ばれる。
- ③ 18世紀後半に始まった産業革命は、技術革新によって、工場制機械工業という新しい生産方式への転換を引き起こした。
- ④ 20世紀後半に起こったエネルギー革命によって、日本の主要なエネルギー源が、水力から石炭に転換した。

平成29年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、AO入試、推薦入試を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



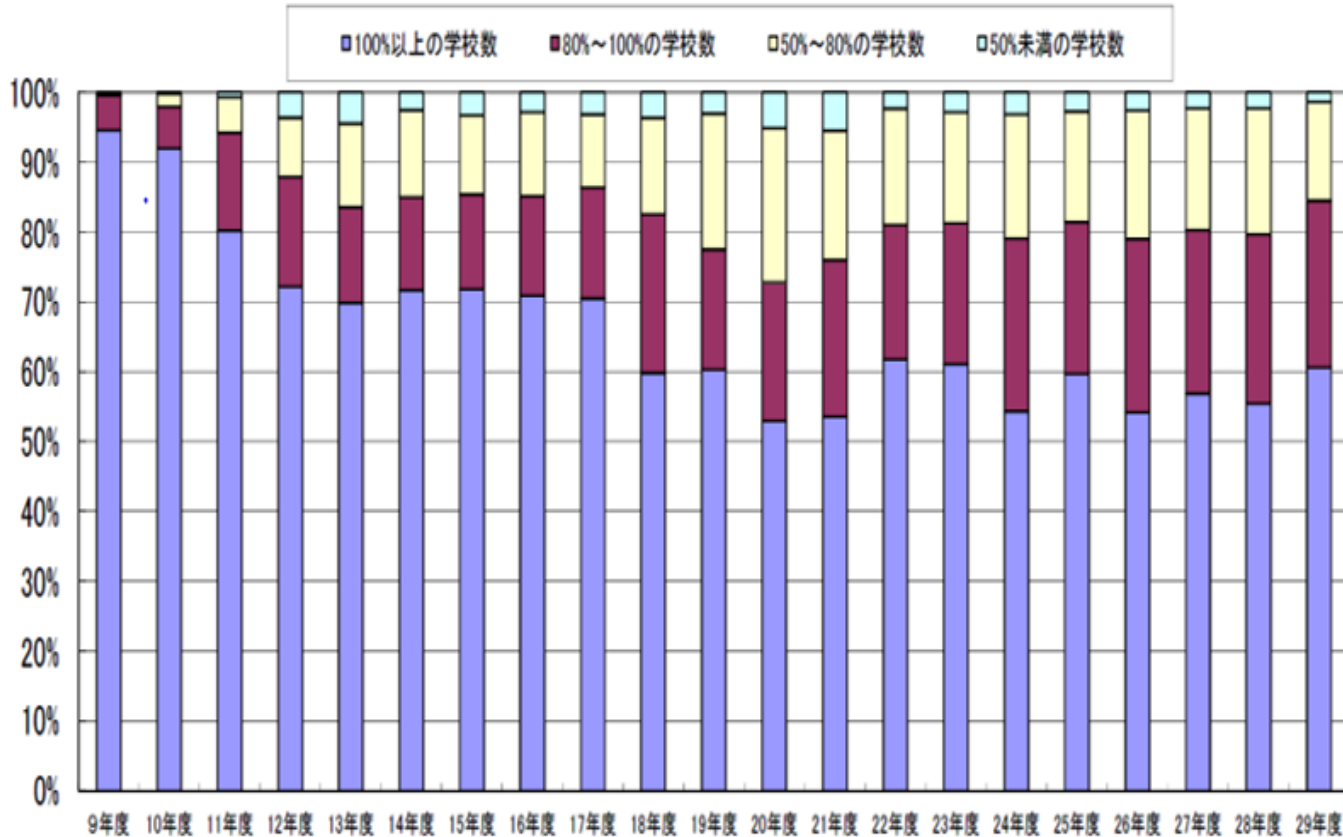
□一般入試 ■推薦入試 □アドミッション・オフィス入試 ■その他

(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

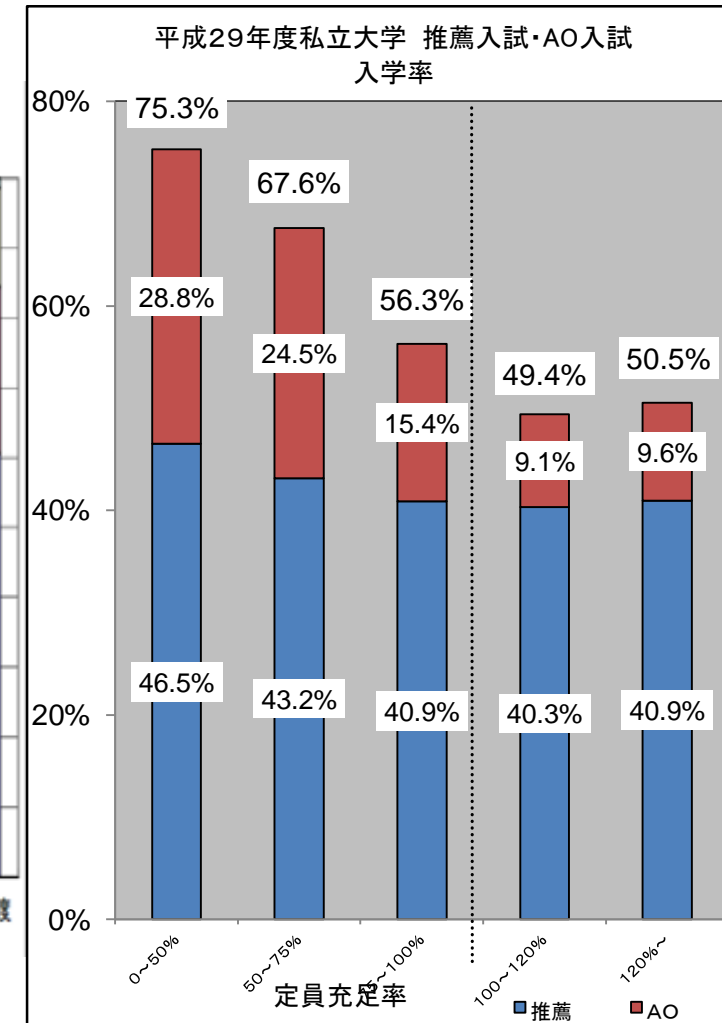
私立大学の入学定員充足状況

- 私立大学の約4割が平成18年度以降、定員割れ
- 定員割れしている大学ほど推薦、AOの実施率が高く、選抜方法が多様化している。

私立大学の入学定員充足状況の推移

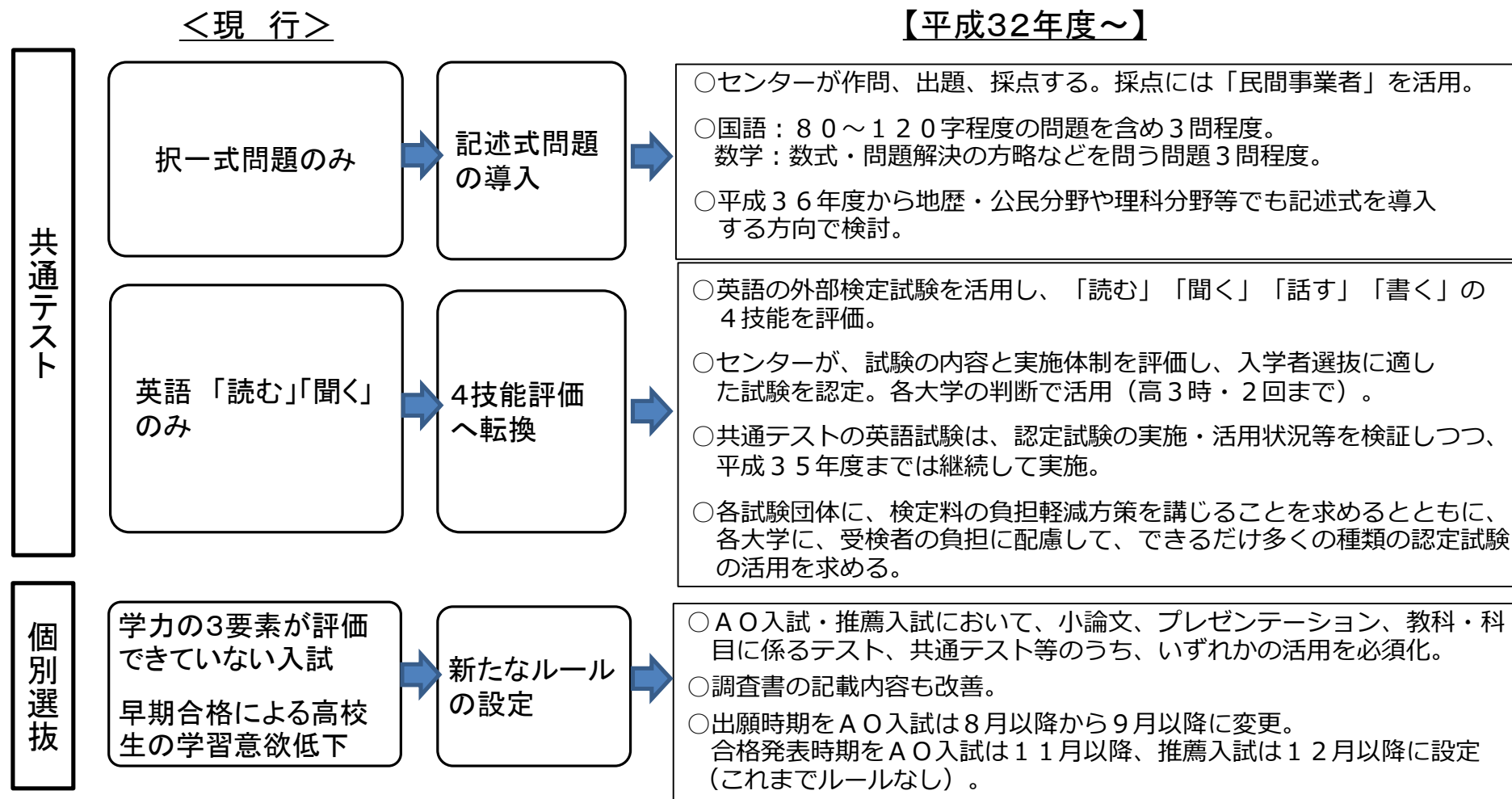


日本私立学校振興・共済事業団「平成29年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」より作成



大学入学者選抜改革

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
 - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学共通テスト」開始 ※記述式、英語4技能
平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革



I C Tを活用し「主体性等」を評価する入試学者選抜モデルの取組み状況

高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」 (文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業(主体性等分野)の取組の一つ)

- 大学入学者選抜に活用できる仕組みを目指し構築中の高校eポートフォリオ・大学出願ポータルサイト。
- 生徒が主体性等に関わる諸活動を「JAPAN e-Portfolio」に記録。
- 大学入学者選抜において、学力の3要素、とりわけ「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を適切に評価し多面的・総合的評価の実現に貢献することを目指す。
- 委託事業(主体性等)への取組み参加は、各高等学校、各大学の判断。

高等学校教育での活用

- **生徒**：「学びのデータ」の記録・振り返り
自らの学習活動を振り返り次につなげる主体的な学び「メタ認知」



入力
(エビデンスとなる証明書類を添付)

振り返り

対話

入力内容の閲覧・承認

(承認は調査書記載の項目等に限定)

データ参照・把握



- **教員**：生徒の「学びのデータ」の参照・把握
→「調査書」「学習指導要録」作成に活用
教育の評価と指導方法の見直しへの活用

【調査書：H33年度より項目が追加・変更】

- 行動の特徴、特技等
- 部活動、ボランティア活動
留学・海外経験等
※具体的な取組内容、期間等
- 取得資格、検定等
※資格・検定の内容、取得スコア、取得時期等

インターネット出願
JAPAN e-Portfolioとデータ連携

委託事業(主体性等)の取組の一つ



高大接続ポータルサイト

「**高校Eポートフォリオ**」

学びのデータを見る



Web出願ポータル

- 全国国公立大学
Web出願サイトへのリンク
- 生徒基本情報登録
氏名、電話番号、住所、保証人氏名、高校名等

運動

個別入学者選抜

**インターネット
出願システム**

- **出願情報**
志望学部・学科
志願日程・科目等
- **生徒基本情報**

- **出願利用情報**
※ JAPAN e-Portfolioに格納したデータを大学出願用に生徒が編集

① **主体性等を含む
学びのデータ**

- ・探究活動
- ・課外活動
- ・資格・検定
- ・表彰・懸賞
- ・特別活動等のデータ
- ・証明書類

② **大学毎の提出書類
「志望理由書」
「活動計画書」等**
※大学所定ドキュメントをデータ添付し提出

- **提出書類**
・原本の証明書(大学判断)
・調査書 等

- **センター試験結果データ**

入学者確定

合否判定

一般入試

各学部のA Pに
基づいた、「**一般
入試**」の評価指
標・基準等による
判定作業

A O・推薦

各学部のA Pに
基づいた、「**△△
入試**」の評価指
標・基準等による
判定作業

大学教育

C P (カリキュラム・ポリシー)に基く、体系的・組織的な教育の実施

※**高校時代の
学びのデータを初年
次教育等に活用**

D P (ディプロマ・ポリシー)にかなう育成

三つのポリシー
チェックに入学前
後のデータ活用
(IR)

**入学者選抜で
使用した各種
データ**

**大学入学後の
学業成績、各種
活動実績等の
データ**

- **A P評価指標・基準等の検証**
- **三つのポリシーの検証**